

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和５年東広島市国際化推進プラン審議会
開催日時	令和５年８月２２日（火）１４：３０～１５：１５
開催場所	東広島市役所本館３階　３０３会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	小松委員
事務局職員氏名	生活環境部　中村部長、市民生活課　岩國課長、市民生活課　松井国際交流係長、鈴木主任主事
会議次第	１　開会 ２　会長・副会長選任 ３　議事 （１）東広島市の外国人市民の状況について （２）東広島市国際化推進プラン実施事業の取組（令和４年度分）の検証 ４　その他 （１）プラン改定方針・今後のスケジュール（案） （２）事務局からの連絡事項等 ５　閉会
配布資料	- 資料１　東広島市における外国人市民の状況について - 資料２－１　第３次東広島市国際化推進プランにおける実施事業の進捗状況について - 資料２－２　第３次東広島市国際化推進プラン実施事業一覧 - 資料３　プラン改定方針・今後のスケジュール（案） - 参考資料１　東広島市国際化推進プラン審議会規則 - その他　東広島市国際化推進協議会リーフレット「世界とつながり未来を創り出す　多文化共生のまち」、次第、席次表、委員名簿

議事内容（要旨）	
事務局	・ 開会 ・ 辞令書配布 ・ 出席者の確認
部長	《挨拶》 ご多忙のところ、本審議会にご出席いただきお礼を申し上げます。また、平素から本市国際化の推進に対し、格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。 この３年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、我々の生活様式は劇的に変化したが、政府は５月から感染症法上の位置づけを「５類」に引き下げ、本審議会を対面で開催できるようになったところである。 このような中、国内には多くの外国人が来日し、本市においても、先月末の外国人数が８,３００人と過去最高を更新中である。今後も留学生を中心に増加が見込まれており、外国人市民のニーズも多様化し、言葉や文化の違いにかかわらず、お互いに認め合い、安心して暮らすことができる「多文化共生社会」の実現は、非常に重要であると考えます。 本日ご出席の委員の皆様には、地域に根付いた国際交流活動等を通じ、本市国際化の中心的役割を担っていただいているところである。本日は改めて令和４年度の国際化推進プランの進捗状況について率直なご意見を頂戴し、来年度に更新予定の第４次国際化推進プランに向け、本審議会が有意義なものとなるようお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。
事務局	・ 会議資料の確認 ・ 委員紹介 ・ 事務局紹介 ・ 審議会規則の説明
事務局	《会長及び副会長選任》 ・ 審議会規則第５条第１項の規定により、会長、副会長を選任する。 ・ 選任は、委員による互選となる。 ・ まずは会長について、選任する。
委員	会長は、現プランを策定した際の会長である本田委員を推薦したい。
事務局	・ 会長を本田委員にという意見をいただいたが、いかがか。 (拍手、全委員一致。会長に本田委員が選出された) ・ つぎに副会長について、選任する。
委員	副会長は、前年に引き続き JICA 中国の村岡委員はいかがか。 (拍手、全委員一致。副会長に村岡委員が選出された)

議事内容（要旨）	
会長	《会長挨拶》 前回に引き続き会長をさせていただく。広島大学内のことはよく把握しているが、学外のこと等わからないことも多いので、みなさまと一緒にやっていきたいと思う。よろしくお願いいたします。
副会長	《副会長挨拶》 本市の外国人市民が現在８３００人ということである。私がこの４月に（JICA 中国センターへ）着任したときは８０００人だったので、３か月で３００人ほど増えている状況だ。次のプランに向けて、みなさまのお声や知恵をいただきながら進めていければと思っている。よろしくお願いいたします。
事務局	・それでは、ここからは会長が議長となり、議事を進めていただく。
会長	・それでは議事を進める。議事（１）東広島市の外国人市民の状況について、事務局からの説明を求める。
事務局	・資料１説明
会長	・質問があれば伺う。
委員	・広島労働局が出している統計データは、外国人雇用事業所と外国人労働者数の関係性を把握できるのか。どの事業所にどのくらい従業員がいるかという情報はわかるのか。
事務局	・国の統計データは、事業所名等の内訳は公表されていないため、事業所と労働者数の関連についての分析は難しい状況である。
会長	・ほかに質問があれば伺う。 ・質問がないので、続いて議事（２）東広島市国際化推進プラン実施事業の取組（令和４年度分）の検証について、事務局からの説明を求める。
事務局	・資料２－１、２－２説明
会長	・質問があれば伺う。
委員	・コミュニケーションコーナーの利用者数の減理由について、「新型コロナウイルスによる入国規制の影響で、外国人市民が減少していたため」という記述があるが、「より相談が多くなる傾向のある、新規外国人市民が少なかった」という記述の方が適切なのではないか。
事務局	・本市は、新たに入国された外国人市民に対して、コミュニケーションコーナーの相談案内や、日本語教室の案内をハガキで個別に行っている。昨年は、３２００世帯の新規入国世帯がある。全体数が少なくなると、コミュニケーションコーナーの利用者数が少なくなるという傾向があるので、そのように記載した。今後、委員の意見を参考にさせていただきたい。

議事内容（要旨）	
委員	・相談体制の充実で、コミュニケーションコーナーの利用者数というのは、相談件数と一致しているのか。具体的な取組が外国人相談窓口の充実であるなら、コーナー利用者数だけでなく相談件数も指標とすることがよいのではないか。
事務局	・コミュニケーションコーナー利用者は、実際に来館された人数である。相談件数とは異なる。コミュニケーションコーナーでは、簡単な相談も含め受け付けており、相談数もかなり多い数字となっている。
委員	・事業全体にコロナ禍という要因が作用しており、相談件数や交流事業に影響があったことは十分理解する。しかし、コロナ禍において、次の課題につながるような発見はあったのか。相談件数自体はコロナ禍になり減ったが、これまでの相談内容とコロナ禍における相談内容がどうであったのか。おそらく、雇用の問題や暮らしの問題が増え、相談内容がより深刻であったと考える。そうした時代背景から浮かび上がってきた課題について要約をすることは難しいと思うが、今後のプランに活かすため整理しておく必要があるのではないか。
事務局	・次につなげる一資料として事務局で整理し、ご提示できるものがあれば、次回（R6）の審議会で提供する。
委員	・新規事業の提案等がある場合、いつの時点で言えばよいのか。
事務局	・R6 年度に審議会を 3 回開催するが、6 月の最初の時点や素案を提示した 10 月頃に開催する審議会でご意見を頂きたいと思う。審議会開催まで間があいていることから、何かあれば事務局へご連絡いただきたい。
会長	・ほかにあれば何う。 ・ないようなので、これで議事は終了とする。
事務局	・事務局より、その他として、プラン改定方針・今後のスケジュール（案）（資料 3）説明 ・事務連絡 ・閉会